

〔第27回〕

NCGG-RI 研究発表会

National Center for Geriatrics and Gerontology, Research Institute

呼吸器疾患における細胞老化の役割

老化機構研究部

杉本 昌隆 室長

2018年3月13日(火) 16時00分～

第1研究棟2階大会議室

細胞老化は、生体にとって極めて重要な癌抑制機構として機能することが古くから知られている。近年では、細胞老化が癌以外の様々な疾患に関ることが明らかになり、中でも組織の老化との関係が注目を集めている。ヒトを含む哺乳動物では、加齢とともに様々な組織で細胞老化の亢進が見られるが、近年の老化細胞除去マウスを用いた研究から、組織内に蓄積した老化細胞が、加齢に伴う組織機能の低下に関与することが明らかになりつつある。

最近我々は、独自に樹立した老化細胞除去可能な遺伝子改変マウスを用いて、肺組織の加齢性変化が、少なくとも部分的に細胞老化に起因し、さらに老化細胞を排除することにより組織機能を回復可能であることを報告した。肺組織の加齢性変化は、他の組織と同様に様々な疾患のリスクとなる。そこで我々はこのマウスを用いて肺疾患モデルを樹立し、呼吸器疾患の発症・進行と細胞老化との関係について解析を行っている。本報告会では、昨年これまでに本研究室で得られた知見について紹介し、今後の展望についても議論したい。

座長：津田 玲生

連絡先：副所長室(内線5002)